

東日本大震災関連の学校図書館活動や資料情報を使った授業実践・教育活動

2011.6.14 受付

実践者名 (ご所属)	米子南高校図書館
メールアドレス	yonagom-h@mailk.torikyo.ed.jp
実践の種類 (○で囲む)	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館活動 授業実践 特別活動 ほか ()
実践活動のタイトル	新聞が伝える「東日本大震災」 茨城の被災状況を知るコーナー
実践日・期間	平成 23 年 6 月 6 日～6 月 17 日
実践の概要	<p>震災から 3 カ月たった今、本校の生徒に東日本大震災の被害やその後の状況をもっとリアルな問題として感じてほしいと思い企画した。展示内容としては、スクラップしている新聞記事の中から、「東日本大震災の被害状況」「福島原発」「復興への課題」の 3 テーマにあわせて記事を選び掲示、あわせて、震災直後の新聞や被害状況を伝える雑誌などを展示、館内では関連書籍やネット上のサイトも紹介した。</p> <p>また、本校の企画の段階で、鳥取県立図書館が「茨城県の被災状況を知るコーナー」を館内に設けておられたので、写真や地元の広報誌などこのコーナーの資料もお借りして同時に展示させてもらった。地元のサッカーチームであるガイナレ鳥取の選手が被災地へ激励の言葉を書いたフラッグや、被災した鹿島アントラーズについての資料もあわせて貸していただいた。</p> <p>展示については職員朝礼で告知し、生徒への呼びかけをしてもらう一方、先生向けの校内掲示板で震災に関連していて、授業の資料として使えるようなサイトを紹介した。</p>
子どもたちの様子	<p>ニューヨークタイムズがデジタル版で公開している写真に目を止める生徒は多い。人物が被写体となっていることで、その状況をリアルに感じることができるのだろう。こうした共感が、震災後の日本全体の復興への気持ちを支えていくのではないだろうか。ガイナレ鳥取の選手による寄せ書きのフラッグも、地元のチームがメッセージを送っているということで、シンパシーを持って見ていた。茨城県の被災状況についても、この展示で知ったという生徒も多かった。一方、新聞記事を足を止めて読むという生徒は少なかったが、テレビのニュースでは取り上げられなかったり、深く伝わらない情報も、新聞では知ることができるということも感じてほしかったので、見出しを目にするだけでも、被害の状</p>

	<p>況や復興への課題について知るきっかけにはなったと思う。今後も機会をとらえて、東日本大震災に関する情報を伝えていきたいと考えている。</p>
写真のコメント	<p>鳥取ガイナレの選手の寄せ書きフラッグ</p>
その他	<p>紹介した web サイト</p> <p>「ABC ニュース Japan Earthquake: before and after」 http://www.abc.net.au/news/events/japan-quake-2011/beforeafter.htm</p> <p>「ニューヨークタイムズデジタル版 東日本大震災写真」 http://www.nytimes.com/interactive/2011/03/12/world/asia/20110312_japan.html#1</p> <p>「東日本大震災 宮城県沿岸部における被災地アンケート」(サーベイリサーチセンター) http://www.surece.co.jp/src/press/backnumber/20110428.html</p> <p>「被災地の声分析レポート」(野村総研) http://www.nri.co.jp/act311/b_report.html</p> <p>「震災一ヵ月後の生活者意識」(電通総研) http://www.dentsu.co.jp/news/release/2011/pdf/2011040-0427.pdf</p> <p>「今週の指標」(内閣府) http://www5.cao.go.jp/keizai3/shihyo/index.html</p> <p>* 網かけしたものは図書館内で生徒にも紹介した</p>